

令和3年度第2回亀岡市総合計画審議会進行管理部会 議事要旨録

日 時：令和3年10月26日（火） 13時00分～13時50分

場 所：亀岡市役所6階 603会議室

出席者：原田禎夫部会長、手塚恵子副部会長、浅田信仁委員、大槻正一委員、
木村好孝委員、渋谷幸雄委員、結城直人委員

欠席者：今里佳奈子委員

議 題：1 開 会

2 議 事

（1）第4次亀岡市総合計画後期基本計画に係る総括について

（2）第5次亀岡市総合計画における進行管理について

3 閉 会

1 開会

2 議事

- （1）第4次亀岡市総合計画後期基本計画に係る総括について、資料No.1・資料No.2に基づき説明（事務局／關本）

部会長

質問・意見があればお願いします。

A委員

資料No.2の右上グレーの「数値の減少が達成となる場合」の凡例部分について、もう一度説明をお願いしたい。

部会長

例えば、No.6の「救急搬送件数（重傷外傷分）」のような件数を減らすことが目標の場合は、実績が90%や80%であれば目標達成となり、100%以上であれば状況が悪化していることになる。目標の79件より減らしたかったが、実績値は146件と2倍近く増えたので「×」となる。No.8の「交通事故死傷者数」は357人が目標であったが、大きく減って144人で、文句なしの「◎」となる。

資料2は、実績値と目標値の列を入れ替えた方が分かりやすいのではないか。

B委員

資料No.2のNo.3、男女共同参画の「審議会等への女性の登用の比率」を50%にする目標値ということは、男女の比率を同じにすることを目指していると思うが、目標達成度65.6%というのは、どういう意味か。

部会長

例えば委員100人中、女性の人数を50人以上としたかったが、実績は32.8人であり、達成時を100%としたときに、目標値の65.6%しか達成できなかったということである。

B委員

国の行政機関や他市と比べると、亀岡市の達成度はどうか。

事務局

第三者委員会など、どこまでを集計に入れるかによって数字は変わってくる。規模の差などもあるため、どこと比較することが適切かということもあるが、他市と比較することも一つの方法だと思う。担当部署で、他市等の数字をある程度持っていると思うので確認し、後日回答する。

部会長

委員の中で、他の審議会や団体の委員をされている方がいれば、女性の比率の状況を教えてほしい。

副部会長

京都府の審議会の委員をしているが、10人中女性は2人。専門的な審議会であり、若い人が委員に就任することが少ないことも課題だと思う。

C委員

P T A全体では女性が多いが、役員への就任は男性に偏っている。P T Aなので皆さんに子どもがおり、女性が子育てを主に担われているのでP T Aへの参加が難しいという風潮がある。夜間に活動する点も、男性が役員に就任する理由の1つと考える。

D委員

青年会議所の会員は経営者が多い。産休などの特別ルールを作って、女性の比率は3割ほどになった。過去と比較して増えてはいるが、これ以上は増えないところである。

資料No.2は、実績値と目標値を入れ替えると見やすくなると思うが、質問がある。No.45の「住宅の耐震化率」の計算不能の数値は、第5次総合計画には指標を変えて採用されているのか。

事務局

第4次総合計画の進行管理で、計算不能ということが課題に上がっていたため、第5次総合計画では「住宅の耐震化率」は採用していない。

部会長

第5次総合計画では、代わりとなる目標があるのか。

事務局

第5次総合計画において、No.45の「住宅・住環境」は「都市計画・都市整備・住環境」と節の名称が変わっている。目指す目標は「不適切管理状態の空き家による悪影響の問題解消・緩和割合」と「空き家バンク登録物件への年間入居者」の2つがある。

部会長

社会福祉協議会の女性の比率はどうか。

A委員

社会福祉協議会の理事や評議員などには、関係団体から選出していただいている充て職が多い。女性の選出をお願いしているが、団体から選出・推薦される方は、男性が多い状況である。

亀岡市も多くの審議会を持っておられるが、充て職で関係団体から選出されている方が多い。関係団体の女性の比率を上げるためには、社会全体に占める女性の役割を見直さないといけない。審議会の女性の比率が向上しただけでは、世の中が変わったことにはならないが、どこから努力するかについての分析で、見ることはいいと思う。社会福祉協議会の職場は女性の方が多く、亀岡市の子育てに関する審議会の委員へは女性を選出している。選出する側の意識を変えていく必要もあると思う。

E委員

全国的に見ると、連合の会長や関西経済同友会の代表幹事に女性が就任しているが、亀岡経済同友会は、60人の会員に対して女性が2人と少ない状況である。できるだけ女性を増やしていこうという声はあるが、経済同友会は経営者の団体であり、そもそも女性の経営者が少ないという問題もある。

A委員

資料No.2の中に、新型コロナウイルス感染症の影響で、目標数値を達成できなかった項目があると思う。新型コロナウイルス感染症による影響があったことを、備考欄などにコメントを入れた方が良いのでは。ただ単に目標を達成できなかったのではなく、新型コロナウイルス感染症の影響で、努力してもできなかったということなので、このままでは行政側がかわいそうだと思う。

部会長

年々改善はしていたが、令和2年度が新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年度であり、令和2年度だけ特異的に悪くなっている場合には、何か備考欄に記載してもいいと思う。例えば人権教育講座は、令和2年度にイベントが開催できなくなったが、それまでは順調に増えていたということが考えられる。

A委員

ガレリアかめおかが閉館しており、講座を開催できなかった。リモートで開催するための環境が整っていないので、開催したくてもできなかったことが考えられる。この結果だけ見ると、新型コロナウイルス感染症の影響があったか分からないので、「※」などの記号で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業が分かるように、印を付けておく方がいいのではないかな。

部会長

特異的に令和2年度の数値が下がっており、明らかに新型コロナウイルス感染症の影響だと分かるものについて、方法は事務局に一任するので検討願う。何年後かに見た時に、令和2年度だけなぜ低いのか分からなくなる。

59ページをご覧いただきたい。「取組の課題と今後の方向性」の2行目「元金償還額を上回らない市債の発行」は、最終年度である令和2年度に実現されているので「取組の成果」に、「頑張って市債の発行を抑制した」「借金をできるだけ増やさないようにした」ということを成果として、もっとアピールしていただきたい。5年間ずっと実現できたわけではないと伺っているが、何年間も努力をして実現していただいたことである。

今はふるさと納税がたくさん入ってきているので、基金残高が順調に増えているが、今後の目標として「借金を引き続き抑制する」「基金の安定的な積立を行う」「ふるさと納税が廃止されても積立ができる財政運営」など、未来的な話を「取組の課題と今後の方向性」に記載すると思う。今は実現できているので、元金償還額を上回らなくなったことを、成果に移してもいいのではないかな。

事務局

元金償還額を上回らない市債の発行に努めるよう、財政運営を心掛けているが、直近10年間で、元金償還額を上回らない市債の発行回数は4回であり、6回は上回っていた。近年は上回らない方が多く市債残高も減少傾向にあるが、どうしても上回ってしまう年が出てくることも有り得る。例えば小中学校の全ての教室に、エアコンを設置するという国の施策がある際には、亀岡市も事業を進めるためには、市債の発行額が増えてしまい、元金償還額を上回る年も出てくる。資料の2のNo.50に、市債残高などの状況が最も表れており、目標達成状況が「◎」になっていることで御理解をいただきたい。

部会長

頑張っていたいでいるので、その「◎」をもっとアピールしてほしい。10年のうち、何年かは上回っていない状態が続いており実現しているなど、そういうことが成果のところにあつた方がいいのではないか。世間一般の話として「役所は無駄遣いしている」「もっと財政を切り詰める」といった話が出ている。ここだけ見ると「元金償還額を上回らない市債の発行」ということが、これからの課題であり、できていないことのように見えてしまう。ずっとできているわけではないが、「取組の成果」に「近年は元金償還額を上回らない市債の発行に留めることができた」や「市債の発行残高も減少に転じることができて」など、一言書いていただいた方が、将来に借金を残さない財政運営を行っていただいていることが伝わると思う。

事務局

財政が改善していることをアピールできる文章を考える。

部会長

60ページの広域連携をご覧いただきたい。第5次総合計画での話となるが、大丹波連携やインバウンド、観光需要をどう取り込むかというところを広域的にやっているかという議論が以前にあり、こういった表現となっているが、広域連携は様々なところで実施しており、消防、病院、ごみ処理、し尿処理、水道などのほか、防災は広域的な業務が欠かせない。また、亀岡市立の小中学校の先生は京都府の職員で、自治体の基礎的な業務を広域的にしている。基礎的な業務に重点を置いて、第5次総合計画では、広域連携をしっかり評価できる形であればいいと感じた。

事務局

総合計画の枠組みを作る中でごみの処理や水道など、市域を超えて実施している事業は、環境やインフラ等の個々の事業の取組や成果に記載しており、見えない形になっている。例えば水道の広域連携であれば、水道と広域連携の両方で成果として見えるよう、事業がどちらの部分でも見える形を考えたい。

(2) 第5次亀岡市総合計画における進行管理について、資料No.3・資料No.4に基づき説明 (事務局／關本)

部会長

質問・意見があればお願いします。

資料No.4のスケジュールについて、令和4年度は委員の改選があるので若干変更があるかもしれない。また、新しい取組として現場視察を9月に予定している。どんな所に行ってみたいか、考えていただきたいと思う。事務局からも場所の提案をしていただきたい。

特に質問・意見等なし。

3 閉会

以上